



## 確認テストを単元のテストとして活用 ～ eライブラリで指導と評価の一体化を目指して～

大道小学校では、学び合いや「分かった」「できた」を実感できる指導のために、ICTを日常使いしています。今回は、単元ごとにeライブラリのドリルと確認テストを活用し、評価に生かす実践をご紹介します。

### 大型モニタに提示して、短時間で前時の復習をする



▲ eライブラリの問題の考え方を全員で考える

#### 理科 6年：「月と太陽」

##### めあて 単元の学習内容を確認しよう

授業の冒頭で、前時の学習内容をふりかえるため、eライブラリのドリルをモニタに提示します。全員で問題文を読んだあと、先生が太陽に見立てたライトをかざし、子どもたちは体の向きを変えながら月と太陽の位置関係と月の形の変わり方をおさらいしました。

### 単元のまとめに確認テストを実施する



▲ 1問1問立ち止まって考えて問題を解く

授業の最後に確認テストを実施します。授業で学習した「月の見え方」を思い返しながら、問題を解いていきます。確認テストの問題は教科書に沿っているため、授業で学習した内容が定着しているかその場で確認することができます。

頭の中でイメージしづらい子どもは、方角や月と太陽の角度を学習メモに書きながら、どのような見え方になるのか考え方を整理していました。

### インタビュー 確認テストのC B T化に向けて

これまで紙と鉛筆で学習していたことをタブレットでも実現し、さらにタブレットならではの活用もできるのではないかと考え、令和2年度の端末配備から理科の授業をICT化、C B T化することを目指しています。**eライブラリは教科書の内容に沿っているため、ドリルと確認テストで点数をとれるようになると、授業で学習したことがしっかり身に付いていることがわかります。**子どもの頑張りや粘り強く学んでいる様子を様々な観点で評価できるように、判断材料の一つとしてeライブラリの学習履歴を評価に生かしています。



理科専科  
山下 和久 先生

